

カイオム・バイオサイエンス (TYO: 4583)

臨床開発2品の開発期間を製品価値最大化のため延長、2025年度単年度黒字化計画は一旦見直し。新社長のもと、開発製品、臨床開発品の価値最大化と新規ビジネスを推進。

◇ **2024年12月期通期決算ハイライト：PFKR導出成功し、増収・赤字縮小**

カイオム・バイオサイエンス（以下、同社）が2025年2月13日に発表した2024年12月期通期決算は増収、赤字縮小となった。売上高7.8億円（前年度比14%増）、営業損失10.3億円（同損失12.0億円）、経常損失10.1億円（同損失12.1億円）、当期純損失10.2億円（同損失12.2億円）である。創薬支援事業が減収になったものの、創薬事業においてライセンス契約の締結による一時金を計上したことと研究開発費において治験薬製造費用等の計上額が減少したことで、赤字が縮小した。

創薬事業においては、2024年11月に、ヒト化抗CX3CR1抗体であるPFKRに関して全世界における独占的な開発、製造及び販売権をサブライセンス権付で旭化成ファーマに許諾し、契約一時金2億円を計上した（今後の開発の進行に伴い最大約248億円を受領する）。重要なマイルストーンの一つを達成したことになる。

一方、創薬支援事業では、同社独自の抗体作成手法であるADLib®システムを中心とした抗体作製技術プラットフォームを活かした抗体作製業務や抗体の親和性向上業務、タンパク質調整業務の受託を小野薬品・中外製薬などから行っており、当期には武田薬品と業務委託基本契約を、メルク社及び富士フィルム和光純薬と当社サービスの販路拡大を企図する業務提携契約を締結している。しかし、新規顧客における受注案件の進捗が見られるものの、既存顧客の組織変更等の影響が継続したため売上高は5.7億円（同1.0億円減）にとどまり、セグメント利益は3.0億円（同0.9億円減）となった。

バランスシートに関しては、現預金が前年度末比7.3億円増（残高20.6億円）、負債が0.4億円減、新株予約権の行使により純資産は同7.6億円増となっている。期末の発行済み株式数は66.9百万株（前期末52.6百万株）である。

決算概要は以上の通りであるが、創薬開発費用が先行するバイオベンチャーに典型的に見られる内容であり、株価への影響は限定的だと考えられる。

◇ **2025年12月期通期業績予想：創薬支援事業の通期売上高予想5億円。2025年までの単年度黒字化計画を見直し**

同社は創薬支援事業の通期売上高予想のみを開示しており、新年度は5.0億円（前年度比0.8億円減）としている。

なお、同社は2025年までの単年度黒字化計画の見直しを表明している。この黒字化の前提は臨床開発に入っているCBA-1205及びCBA-1535のライセンスによる契約一時金の獲得が前提であった。しかし今回開発方針が修正され、CBA-1205では肝細胞がん、メラノーマに加えて小児の神経内分泌がんの試験の検討も追加されており、CBA-1535では早期導出のために第一相前半パート（単剤）のデータ拡充を図ることになった。このため、両剤の開発期間が従来想定と比べて延長される。

単年度黒字化の時期が遅れる可能性が高まったことは残念ではあるが、両剤の経済価値を確保・向上させるための開発期間延長であり、当座の運転資金も手当てされていることから、総じて中立的と捉えたい。

なお、開発パイプラインには先のPFKRのライセンス契約締結を除き著変はなく、順調に推移している模様だ。

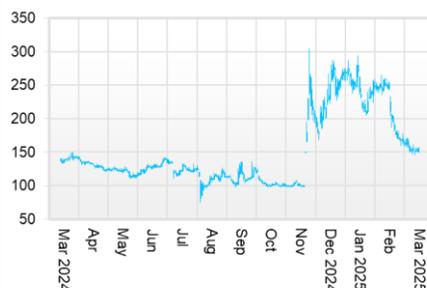
4Q決算アップデート

ヘルスケア

2025年3月17日

株価(3/14)	156円
52週高値/安値	75/304円
1日出来高(3ヶ月)	5,927.7千株
時価総額	105億円
企業価値	97億円
PER(25/12会社予想)	-倍
PBR(24/12実)	5.47倍
予想配当利回り(25/12)	-%
ROE(24/12)	-66.8%
営業利益率(24/12)	-132.0%
ベータ(5年間)	0.6
発行済株式数	67.369百万株
上市市場	東証グロース

株価パフォーマンス



%	1M%	3M%	12M%
Share price	-38.34	-33.33	11.43
Japan TSE TOPIX	-1.80	-1.12	2.54

注目点

自社開発品であるCBA-1205およびCBA-1535などのライセンスが成約し、なるべく早期に単年度黒字化を実現できるか。

その後においても、ライセンスが継続するか、既導出品のマイルストーン収入および創薬支援事業・バイオシミラー事業・IDDビジネスの収益貢献が同時並行的に寄与し、収益源の最大化・多元化・安定化が進んで、企業価値の最大化にどのように結びつくのか。

カイオム・バイオサイエンスはOmega Investment Limitedの顧客であり、同社の依頼を受けてレポートを作成しています。詳しくは、最終ページのディスクレマを参照ください。



◇ 社長交代と新規ビジネスの展開

2025年3月の株主総会をもって、現社長の小林氏から現取締役研究本部長の小池氏へトップが社長が交代する予定である。

また、同社の新規ビジネスとして、すでに発表済みのキッズウェル・バイオ社との業務提携によるバイオシミラー事業参入に加え、今回抗体創薬にかかるプラットフォーム型ビジネス（IDDビジネス）を立ち上げることが発表された。同社の抗体創薬に関する幅広い知見を製薬会社及びスタートアップに提供し、これら顧客の中で研究・開発が手薄になっている有望な抗体創薬研究を後押ししながら対価を得るモデルで、従来同社が手掛けていたローリスク・ローリターン型の創薬支援事業と、ハイリスク・ハイリターン型の創薬事業の中間を埋め、バイオシミラー事業とともに収益源の多元化・安定化を期待できそうだ。まず、エーザイ及びOmniAb, Inc.との共同研究契約が発表されている。

◇ 株価動向と今後の注目点

同社の株価はゆるやかな下落トレンドにあったが、前述のPFKRのライセンス契約の報を受け100円前後にあった株価が、300円台まで急騰した。しかし本通期決算発表後、株価は160円台まで調整している。

この最近の株価下落は、2025年12月期の単年度黒字化が見直されたことが主因と見られる。しかし、直近の株価は急騰前の100円台と比べて6割高い水準にあり、創薬事業のポテンシャルと、社長交代に伴う同社のビジネスモデルの変革への期待（収益源の多元化と安定化）が織り込まれていると思われる。

当面の注目点は、（1）PFKRのライセンス契約に続き、自社開発品であるCBA-1205およびCBA-1535などの導出が成功するか、その経済条件は十分なものか、（2）早期に単年度黒字化を実現できるか、（3）バイオシミラー事業・IDDビジネスが立ち上がり同社の収益力が向上するのか、であろう。

会社概要

カイオム・バイオサイエンス株式会社（以下、同社）は、独自のADLib/Tribodyの技術に立脚した抗体創薬開発でアンメットニーズに応えるバイオベンチャー企業。創薬事業（アンメットニーズの高い疾患領域における抗体創薬の自社開発または共同開発を行い、その成果物である抗体に関する特許権等の知財権を製薬企業等に実施許諾し、契約一時金、マイルストーン、およびロイヤルティ等の収入を獲得していく事業）を成長の柱と据えており、10品目程度のパイプラインを抱え、うち3品目が臨床段階にあり、2024年11月には前臨床のプログラム1件をライセンスアウトした。また、これを補完する事業として創薬支援事業（主として国内製薬大手企業に対して当社の保有する抗体創薬技術プラットフォームを活用した抗体作製・抗体エンジニアリングおよびタンパク質調製を提供する高付加価値型受託研究ビジネス）で実績を築いており、さらにバイオシミラー事業、IDDビジネスへの展開も開始している。

主要財務データ

単位: 百万円	2020/12	2021/12	2022/12	2023/12	2024/12	2025/12 会社予想
売上高	481	713	631	682	781	NA
EBIT（営業利益）	-1,284	-1,334	-1,259	-1,205	-1,031	NA
税引前収益	-1,291	-1,466	-1,238	-1,215	-1,018	NA
親会社株主帰属利益	-1,294	-1,480	-1,243	-1,220	-1,021	NA
現金・預金	2,686	1,791	1,727	1,326	2,063	
総資産	3,495	2,339	2,215	1,751	2,469	
債務合計	291	291	291	291	282	
純有利子負債	-1,035	-1,035	-1,035	-1,035	-1,782	
負債総額	385	446	425	594	549	
株主資本	1,158	1,158	1,158	1,158	1,920	
営業活動によるキャッシュフロー	-1,360	-1,131	-1,191	-1,069	-1,001	
設備投資額	0	0	0	0	0	
投資活動によるキャッシュフロー	-4	-35	0	0	0	
財務活動によるキャッシュフロー	1,944	271	1,127	667	1,738	
ROA (%)	-41.06	-50.73	-54.57	-61.51	-48.37	
ROE (%)	-45.15	-59.16	-67.48	-82.76	-66.33	
EPS (円)	-36.1	-36.7	-28.3	-24.6	-17.5	
BPS (円)	78.7	46.4	37.0	22.0	28.7	
一株当り配当(円)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
発行済み株式数(百万株)	58.28	58.28	58.28	58.28	66.97	

出所：同社資料よりOmega Investment 作成、小数点以下四捨五入

株価推移





四半期トピックス

トピックス



PFKRの旭化成ファーマとのライセンス契約締結
 その他の創薬プロジェクトについては引き続き導出契約の獲得に向け
 製薬企業との各種協議を継続中

**CBA-1205の有効性を期待できるがん種としてメラノーマ群の追加と、
 これに伴う治験期間の延長を決定**
 ⇒導出機会・製品価値の最大化を目指す

CBA-1535の安全性および薬効シグナルの確認に向けて治験期間を延長
 ⇒早期の導出等の可能性も見据える

**自社抗体関連技術及び抗体創薬の経験に基づくビジネス機会の拡大により、
 当社の知識経験（Intelligence）を収益化するIDD*の推進**
 ⇒エーザイ社との共同研究契約を締結

*: Integrated Drug Discovery

**キッズウェル・バイオ社との業務提携を通じ、
 新たにバイオシミラービジネスに参入**
開発・販売を担う第三のパートナー企業の選定・協業交渉中

Copyright © 2025 Chiome Bioscience Inc. All Rights Reserved.

出所：同社資料

2024年12月期_事業進捗ハイライト



創薬事業 - 自社パイプライン

CBA-1205	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 臨床第1相試験前半パートで登録されたメラノーマ（悪性度の高い皮膚がんの一種）の患者さんで腫瘍縮小を伴うSD（安定）評価が続き42ヶ月を超えて長期継続投与中。 ✓ メラノーマを対象とする開発パートの追加決定。
CBA-1535	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 固形がんの患者さんを対象に段階的に用量を上げながら、安全性と初期の有効性を評価中。現時点では安全性に関して重大な懸念なし。 ✓ 本剤のコンセプトであるT細胞の活性化を示す血中バイオマーカーの変化が見え始めている。
創薬プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 旭化成ファーマへのPFKRの導出契約締結。 ✓ 前臨床段階にある複数の創薬プロジェクトの導出活動を継続。 ✓ 創薬並びに技術開発プロジェクトにおける研究成果を国内外の学会等で外部発表。

新規事業

IDD	<ul style="list-style-type: none"> ✓ エーザイとの共同研究契約締結。
バイオシミラービジネス	<ul style="list-style-type: none"> ✓ キッズウェル・バイオ社と業務提携契約を締結。新たな収益源の確保を目的とし、臨床・CMC関連の当社機能を用いたバイオシミラービジネス立ち上げのため、第三のパートナー企業の選定と協業交渉中。

創薬支援事業

製薬企業等との取引	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 2024年の売上高は577百万円と顧客の組織変更等の影響により売上高は前期を下回る。 ✓ メルクおよび富士フイルム和光純薬と業務提携契約を締結し、抗体作製受託サービスの販路拡大および効率化による本事業の安定的な成長を目指す。
------------------	---

Copyright © 2025 Chiome Bioscience Inc. All Rights Reserved.

出所：同社資料



四半期トピックス

主要パイプライン（抜粋）



★ ファーストインクラス
 ★★ 世界初の創薬モダリティでの臨床入り

開発コード	標的分子	疾患領域	ステータス
★ CBA-1205 (ADCC enhanced)	DLK-1	がん	第1相試験中 (jRCT2080225288) (NCT06636435)
★★ CBA-1535 (Tribody®)	5T4×CD3×5T4	がん	第1相試験中 (jRCT2031210708)
★ PCDC (ADC)	CDCP1	がん	非臨床試験中
PTRY	5T4×CD3×PD-L1	がん	非臨床試験中
PXLR	CXCL1/2/3/5	がん	非臨床試験中
PFKR	CX3CR1	自己免疫性 神経疾患等	2024年11月 旭化成ファーマへ導出

2024年12月31日時点

※上記以外のパイプラインについては、引き続き成果創出に向けて取り組み、適宜進捗をご報告いたします。

Copyright © 2025 Chiome Bioscience Inc. All Rights Reserved.

10

出所：同社資料

CBA-1205 : 臨床開発



肝細胞がん患者さんにおいてPR症例の確認 メラノーマパートの追加



Copyright © 2025 Chiome Bioscience Inc. All Rights Reserved.

12

出所：同社資料

四半期トピックス

CBA-1535 : 臨床開発



CBA-1535臨床第1相試験の前半パートが進行中



Copyright © 2025 Chiome Bioscience Inc. All Rights Reserved.

13

出所：同社資料

黒字化目標の見直しと臨床開発品目の今後の展望

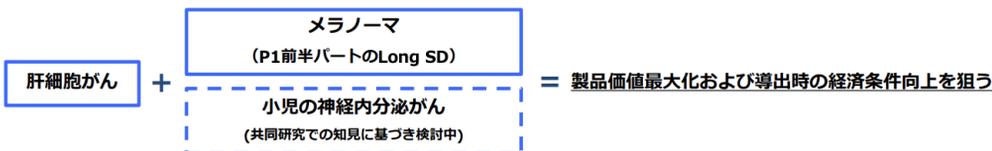


1) CBA-1205は適応拡大を視野に入れた開発パートの追加による導出機会及び製品価値の最大化、CBA-1535はT cell engagerの開発競争が進む中で前半パートの結果を用いた導出を狙う
⇒両剤の開発期間の延長（～2026年）と、有用なデータを用いたライセンス契約締結を目指す。

2) 2025年までの単年度黒字計画は、CBA-1205・1535のライセンスによる契約一時金の獲得が計画実現達成にむけた重要な前提であるため、上記臨床開発計画の延長に伴い2025年までの単年度黒字目標は見直す。

⇒今後の臨床試験において薬効の確認が期待される。ライセンス候補企業への開発状況のアップデートを継続する。

CBA-1205の今後の展望



CBA-1535の今後の展望



Copyright © 2025 Chiome Bioscience Inc. All Rights Reserved.

14

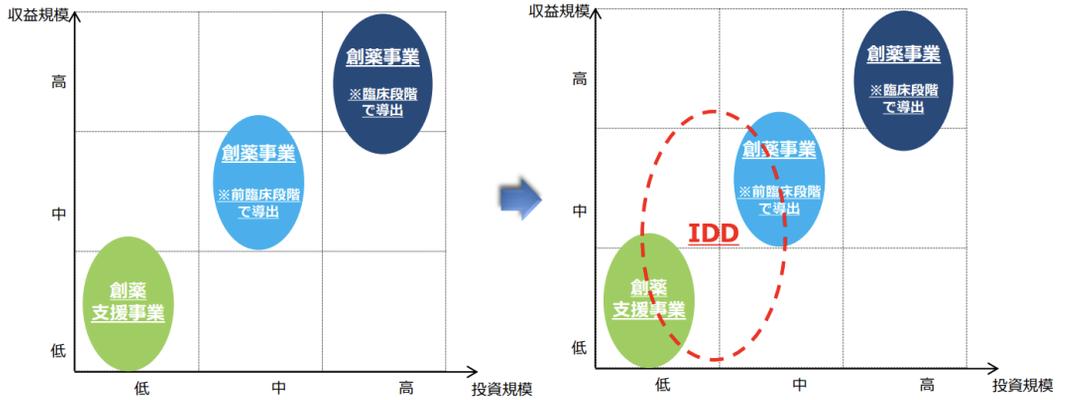
出所：同社資料

新規事業の立ち上げ



IDDビジネス（抗体創薬にかかるプラットフォーム型ビジネス）を立ち上げ、2025年以降の事業展開における収益力の強化とそれによる経営基盤の安定化を図る。

創薬事業/創薬支援事業のリスク/リターン



創薬支援	IDD NEW	創薬
当社の保有する抗体創薬技術プラットフォームを活用した抗体作製・抗体エンジニアリングおよびタンパク質調製を提供する“高付加価値型受託研究ビジネス”。	製薬企業等のパートナー企業の様々な研究開発ニーズに対して自社知識経験・技術に基づく解決法を提供し、共同で抗体創薬の研究開発を進め、マイルストーン収入を獲得していく事業。	抗体創薬の自社開発または共同開発を行い、その成果物である抗体に関する特許権等の知財権を製薬企業等に実施許諾し、契約一時金、マイルストーン、およびロイヤルティ等の収入を獲得していく事業。

Copyright © 2025 Chiome Bioscience Inc. All Rights Reserved.

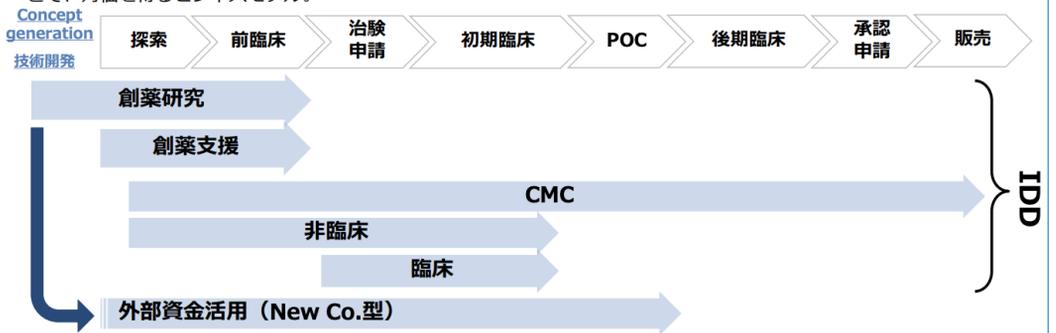
出所：同社資料

カイオムの知識経験（Intelligence）をマネタイズするIDD型事業



抗体創薬のプラットフォームビジネス

抗体創薬のプロジェクトをスクリーニング、in vitro/vivo評価、CMC、IND、初期臨床までを一気通貫で対応可能なプラットフォームを構築。カイオムの創薬研究開発の経験知識・技術を元に、パートナーに様々な課題解決法を提供する。国内企業を中心に専門性不足・リソース不足により未着手となっている有望な抗体創薬研究に関するコラボを推進することで、対価を得るビジネスモデル。



国内企業を中心に専門性不足・リソース不足により未着手となっている有望な抗体創薬研究に関するコラボを推進

製薬会社

多様化するモダリティの中で、個別モダリティの専門性の維持確保が困難に

スタートアップ

適切な開発ステップの実行能力を各社で個別に整える事には限界がある

Copyright © 2025 Chiome Bioscience Inc. All Rights Reserved.

出所：同社資料

財務データ | (四半期ベース)

単位: 百万円	2022/12期		2023/12期				2024/12期			
	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
[損益計算書]										
売上高	197	169	189	165	158	130	134	159	358	
前年同期比	15.1%	31.8%	26.6%	6.2%	-19.6%	-23.5%	-29.2%	-3.8%	126.1%	
売上原価	83	73	77	67	67	73	56	74	145	
売上総利益	114	96	113	98	92	57	78	85	213	
粗利率	57.8%	56.6%	59.5%	59.6%	57.8%	44.0%	58.0%	53.4%	59.5%	
販管費	333	322	546	344	391	379	337	425	323	
EBIT (営業利益)	-219	-226	-433	-246	-300	-322	-259	-340	-110	
前年同期比	-54.6%	-53.5%	48.0%	-5.4%	36.7%	42.6%	-40.2%	38.1%	-63.3%	
EBITマージン	-111.3%	-133.4%	-228.6%	-149.0%	-189.3%	-248.5%	-193.1%	-213.9%	-30.7%	
EBITDA	-219	-226	-433	-246	-300	-322	-259	-340	-110	
税引前収益	-214	-226	-435	-254	-300	-303	-259	-351	-105	
当期利益	-215	-228	-436	-255	-302	-304	-260	-352	-105	
少数株主損益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
親会社株主帰属利益	-215	-228	-436	-255	-302	-304	-260	-352	-105	
前年同期比	-66.2%	-53.8%	56.5%	-0.7%	40.1%	33.5%	-40.4%	38.0%	-65.1%	
利益率	-109.2%	-134.4%	-230.1%	-154.3%	-190.3%	-234.5%	-193.9%	-221.2%	-29.4%	
[貸借対照表]										
現金・預金	1,727	1,566	1,245	1,342	1,326	1,325	1,104	1,241	2,063	
総資産	2,215	2,086	1,686	1,753	1,751	1,754	1,557	1,694	2,469	
債務合計	184	301	298	316	291	314	292	303	282	
純有利子負債	-1,543	-1,265	-947	-1,026	-1,035	-1,012	-812	-938	-1,782	
負債総額	425	524	541	542	594	506	487	478	549	
株主資本	1,791	1,562	1,145	1,211	1,158	1,248	1,071	1,216	1,920	
[収益率 %]										
ROA	-54.57	-46.44	-62.98	-59.13	-61.51	-67.53	-69.09	-70.61	-48.37	
ROE	-67.48	-60.83	-86.66	-79.25	-82.76	-92.28	-101.15	-100.30	-66.33	
[一株当たり指標: 円]										
EPS	-4.6	-4.7	-9.0	-5.2	-5.8	-5.6	-4.6	-6.1	-1.3	
BPS	37.0	32.3	23.6	23.9	22.0	22.4	19.0	19.9	28.7	
一株当たり配当	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
発行済み株式数 (百万株)	48.42	48.42	48.50	50.01	52.19	55.40	56.39	61.24	66.97	

出所：同社資料より Omega Investment 作成

財務データ II (通期ベース)

単位: 百万円	2015年 12月期	2016年 12月期	2017年 12月期	2018年 12月期	2019年 12月期	2020年 12月期	2021年 12月期	2022年 12月期	2023年 12月期	2024年 12月期
[損益計算書]										
売上高	280	252	260	213	448	481	713	631	682	781
前年同期比	-24.4%	-10.0%	3.0%	-18.1%	110.3%	7.4%	48.3%	-11.5%	8.2%	14.4%
売上原価	225	228	94	107	167	238	292	283	285	348
売上総利益	55	25	166	106	281	243	421	348	398	433
粗利率	19.8%	9.7%	64.0%	49.6%	62.7%	50.5%	59.0%	55.1%	58.3%	55.4%
販管費	1,325	1,067	1,054	1,645	1,683	1,526	1,755	1,606	1,603	1,464
EBIT (営業利益)	-1,270	-1,042	-888	-1,539	-1,402	-1,284	-1,334	-1,259	-1,205	-1,031
前年同期比	10.0%	-17.9%	-14.8%	73.4%	-8.9%	-8.4%	3.9%	-5.7%	-4.2%	-14.5%
EBITマージン	-453.4%	-413.3%	-341.6%	-723.1%	-313.2%	-266.9%	-187.2%	-199.5%	-176.6%	-132.0%
EBITDA	-1,168	-929	-877	-1,532	-1,397	-1,280	-1,331	-1,257	-1,204	-1,030
税引前収益	-1,281	-1,501	-880	-1,531	-1,401	-1,291	-1,466	-1,238	-1,215	-1,018
当期利益	-1,283	-1,491	-883	-1,534	-1,404	-1,294	-1,480	-1,243	-1,220	-1,021
少数株主損益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
親会社株主帰属利益	-1,283	-1,491	-883	-1,534	-1,404	-1,294	-1,480	-1,243	-1,220	-1,021
前年同期比	11.5%	16.3%	-40.8%	73.8%	-8.5%	-7.8%	14.4%	-16.0%	-1.8%	-16.3%
利益率	-457.9%	-591.2%	-339.6%	-720.5%	-313.6%	-269.1%	-207.6%	-197.0%	-178.8%	-130.7%
[貸借対照表]										
現金・預金	4,100	4,553	4,027	2,329	2,106	2,686	1,791	1,727	1,326	2,063
総資産	4,919	4,789	4,419	2,831	2,808	3,495	2,339	2,215	1,751	2,469
債務合計	100	54	4	0	0	180	183	184	291	282
純有利子負債	-4,000	-4,499	-4,023	-2,329	-2,106	-2,506	-1,608	-1,543	-1,035	-1,782
負債総額	355	224	202	154	187	385	446	425	594	549
株主資本	4,564	4,565	4,218	2,677	2,622	3,110	1,893	1,791	1,158	1,920
[キャッシュフロー計算書]										
営業活動によるキャッシュフロー	-1,245	-970	-867	-1,689	-1,537	-1,360	-1,131	-1,191	-1,069	-1,001
設備投資額	168	11	5	0	0	0	0	0	0	0
投資活動によるキャッシュフロー	-1,780	1,989	-137	0	-26	-4	-35	0	0	0
財務活動によるキャッシュフロー	124	1,434	479	-10	1,341	1,944	271	1,127	667	1,738
[収益率 %]										
ROA	-22.95	-30.72	-19.17	-42.30	-49.79	-41.06	-50.73	-54.57	-61.51	-48.37
ROE	-24.69	-32.67	-20.10	-44.49	-52.99	-45.15	-59.16	-67.48	-82.76	-66.33
[一株当り指標: 円]										
EPS	-58.3	-65.9	-33.5	-57.3	-44.6	-36.1	-36.7	-28.3	-24.6	-17.5
BPS	207.0	179.3	157.5	99.9	78.8	78.7	46.4	37.0	22.0	28.7
一株当り配当	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
発行済み株式数 (百万株)	22.05	25.31	26.78	26.78	33.28	39.51	40.31	48.42	52.19	66.97

出所：同社資料より Omega Investment 作成



General disclaimer and copyright

本レポートは当該企業への取材や決算資料等を元に作成・表示したのですが、その内容及びデータの正確性、完全性、信憑性を保証するものではありません。本レポートは、情報提供のみを目的としており、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。オメガインベストメントは、本レポートの使用により発生した結果について一切の責任を負うものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への取材を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はオメガインベストメントの Recherche によるものです。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はオメガインベストメントに帰属します。配布、譲渡、複製、及び転送その他の利用は本レポートの著作権侵害に該当し、固く禁じられています。